

※この報告書は、なごや環境大学のウェブサイト上に記録として掲載されます。

様式 2  
(2023年度)

### 事業実績報告書

講座番号	B-02	講座名	空港・航空機と環境～未来を見つめて～
記載日		団体名・企業名	環境カウンセラー岡本明子

〈講座全体の概要〉(300字程度)

『飛び恥』という言葉が生まれたように、飛行機は環境に良くない、という意見があります。でも、島国日本にとって飛行機は不可欠。飛行機なしでは、グローバル化した世界から取り残されてしまいます。だからこそ、関係者が、必死に様々な努力を続けています。／今回は、毎年開催している『セントレアまるごとウォッチング』とは違った視点で、空港と航空機を考えました。国土交通省航空局から国の取り組みを、中部国際空港(株)からは、空港会社存続をかけた取り組みを、愛知県から2つの空港の意義をお聞きしました。空港ミュージアムでお聞きした、元テストパイロットからのお話は、リアルで秀逸でした。



※写真1の説明

6/7あいち航空ミュージアム  
展示物の解説を受ける

※写真2の説明

6/7あいち航空ミュージアム屋上  
名古屋空港の説明を受ける

〈企画・運営者の声(感想)〉(350字程度)

飛行機の環境負荷が問題となっている。が、島国日本には、完全にやめるという選択肢はない。では、環境への負荷を減らしつつ、飛行機を利用し続ける道はないのか。ずっと思い続けていたこの疑問に、答えを探すためこの講座を企画した。脱炭素に向けての努力や工夫を探った。空港会社では、細かな様々な工夫を重ねるだけでなく、長期的な視野で、水素利用の取り組みなど脱炭素の取り組みが続いている。航空局では、世界レベル、国レベルでの取り組みや、航路を工夫した管制によっても、省エネに努めていることを学んだ。テストパイロットのお話から飛行機開発の難しさもお聞きした。期待されているSAFも、安全性の担保や原料の調達の難しさから、すぐ導入できるという訳でもなさそうだ。が、SAFの確保が空港利用の拡大を促しそうな流れになりそうではある。企画にご協力いただいた皆様に感謝!

〈受講者の声(実感した反応及びアンケートより)〉(3～5点、計350字程度)

コロナが治まり、飛行機の運用が再開し始めた時期にあった、タイムリーな企画普通では見学できない所に入ったり見学できたりしてよかった。普通では会う事のない専門家のお話が聞けて良かった。飛行機をよく利用したが、このような視点で考えたことはなかった。今、ドローンや空飛ぶ飛行機など、空中での移動が話題になっている。安全性(空中の人はもちろん、陸上の人)は大丈夫なのだろうか。

様式 2  
(2023年度)